

ダイトケミックスが創る価値創造の歴史は、「未来への歩み」

当社は、「化学」というステージで新たな価値を創造し、世の中を独自の目線でとらえながら、その先に広がる未来を切り拓きます。

1938

大東化学工業所として創業、
顔料「群青」の製造販売開始。

1938年11月、大阪府北河内郡南郷村（現 大阪府大東市の一部）に、創業者石川郁二郎、社名大東化学工業所、製造品目「群青」で創業。その後、ゴム薬（硫化促進剤、老化防止剤）の製造に広がり、品質の改良を重ねた結果、業績は徐々に上向きに転じた。1942年6月には、軍需協力工場にも指定され、経営基盤も安定した。



創業当時の研究室

1949

ナフトール染料メーカーとして
確立、東南アジア諸国への
輸出を開始。

ナフトール染料の開発の成功で経営の見通しが立ったとの判断のもとに、1949年12月株式会社組織に改め、株式会社大東化学工業所を設立。戦後、経済の復興の中でナフトール染料はきわめて順調に売上を伸ばし、市場を確保していった。

1962

当社主要製品の基礎を確立。

1962年に写真剤および1964年にジアゾ感光剤の新製品を開発し、今日の写真材料、感光性材料の基礎をつくった。1972年10月、静岡の工場用地に第1期の工場建設を完了し、写真材料を中心とする生産活動に入り、これを大浜工場（現、静岡工場）とした。



大阪事業所（1968年）

1991

「ダイトケミックス株式会社」
としての新たな出発。

1991年10月に「ダイトケミックス株式会社」に社名を変更した。1992年度から始まる中期経営計画は、企業理念である「3つのグッド」を実践し、夢豊かな社会づくりを目指して、開発重視の企業への転換を進め、技術開発部を発足させた。



技術開発部研究所4号館（1994年）

2018

スペシャリティ・
ファインケミカルズの拡充。

2001年頃から始まったIT不況により、低迷期があったが、当社の得意技術を基にスペシャリティ・ファインケミカルズへの展開を進め、その後の半導体市場の回復や最先端半導体用感光性材料やディスプレイ用材料等の売上増加により、業績を回復した。



静岡工場（2000年）

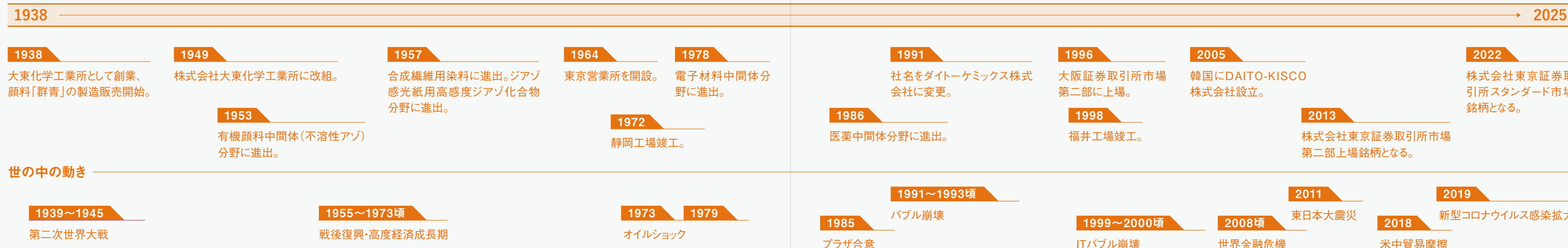
2025

持続的に成長する
スペシャリティ・
ファインケミカル
企業グループへ。



2023年3月電子材料工場を福井工場内に建設

沿革



世の中の動き



ダイトケミックスの価値創造のプロセス

当社は、企業理念「快適でより豊かな社会づくり」のもと、常に時代が求める新たな製品・技術開発を通して新しい価値を創造し続け、持続可能な社会に貢献していきます。

理念

快適で
より豊かな
社会づくり

インプット 2024年度

財務資本

総資産
243億円
自己資本比率
61.1%

知的資本

研究開発費
11億円
成長投資
技術力のさらなる向上を図るために
2024年度からの3年間で売上高研
究開発費比率8%以上を計画します。

人的資本

従業員数
243人(単体)
成長投資
持続的な成長と最適な組織運営を
図るために3年間で約30人の要員採
用と教育費6500万円を計画します。

製造資本

設備投資額
7億円
成長投資
2024年度から2026年度までの
3年間で総額約30億円の設備投
資を計画します。

事業活動

CSR方針

法令遵守をはじめとした「企業倫理活動」とものづくりに欠かせない「レスポン
シブル・ケア活動」を二つの柱とし、CSR活動に取り組んでいます。

有機合成技術

ジアゾ化合物、還元反応、酸化反応、ハロゲン化、
複素環化合物、その他の有機合成技術



重合技術

溶液ラジカル重合、懸濁重合・乳化重合、
沈殿重合



金属含量低減技術

再結晶、再沈処理、酸洗浄、フィルター濾過、
イオン交換樹脂を用いた処理



分散技術

バス方式または循環方式による湿式固体分散
および微粒子化



コーポレート・ガバナンス ▶ P33

中期経営計画

DAITO VISION 2026

持続的に成長する
スペシャリティ・ファインケミカル
企業グループへ

2024年5月、3ヵ年の中期経営計画「DAITO VISION
2026」を公表。
5つの方針のもと、サステナブルな社会の実現を見据え、当社
独自の技術力を活かして、既存製品の深化と新たな分野の開
拓に取り組み、2026年度までの目標達成に挑みます。

リスクマネジメント ▶ P34

アウトプット

電子材料
▶ P18



イメージング材料
▶ P19



医薬中間体および
その他化成品
▶ P19



環境関連事業
▶ P20



アウトカム

経済的価値の向上

連結経営目標

売上高 **185億円**
経常利益 **6億円**
経常利益率 **3%以上**

2024年度(2025年3月期)

売上高 **186億円**
経常利益 **8億円**
経常利益率 **4.4%**

社会的価値の向上

一歩先をゆくスペシャリティ・ファインケミカルメーカーとして、変わらない思い「グッドマインド」「グッドパートナー」「グッドテクノ」という3つのキーワードを基本に、自らに与えられた使命を誠実に果たし、常に時代が求める新たな製品・技術開発を通して、快適でより豊かな社会づくりに貢献し続けます。

社会課題

環境

- 省エネルギー・省資源
- 温室効果ガス発生削減
- 資源の再利用・再使用
- 化学物質の適切な取り扱い
- 環境負荷物質の低減

安心・安全

- 法律、規制、要求事項等を遵守
- 品質改善活動、要望品質確保
- 職場の安全衛生
- 製品・サービスの安全性
- 保安・防災



事業を通じてSDGs達成に
貢献いたします。

当社は持続可能な社会の実現に向け、製品、サービス、ステークホルダーの皆様とのかかわりを通し、これらの目標の達成に貢献いたします。



ステークホルダー

株主・投資家

お客様

お取引先

地域・社会

行政・自治体

従業員

【INPUT】ダイトケミックスの諸資本

当社は1938(昭和13)年に顔料「群青」の製造販売で創業して以来、社会と産業の発展とともに歩んできました。このような長きにわたる歴史の中で蓄積した資本は、当社の経営基盤の源泉と

なっています。これらの資本を有機的につなげ中長期的で最大限の価値を引き出すことで、当社のさらなる成長を目指します。

財務資本



総資産 **24,330**百万円 自己資本比率 **61.1%**

健全な財務体質を向上していくとともに、資源の有効活用を図る。

健全な企業経営に努めるとともに、企業価値を高めることによって、株主の皆様利益還元を図っていくことが最も重要であると考えています。当社がおかれている事業環境は、急速な技術革新、新製品開発競争の激化とそれに伴うユーザーニーズへの迅速な対応が求められていることから、引き続き、内部留保資金を新製品、新技術の研究開発投資および生産対応の設備投資に有効に活用し、価値創造を支えます。

製造資本



設備投資 **657**百万円 製造拠点 **3**拠点(内、海外1拠点)

「ものづくり」メーカーとして、安全第一を基本に置き、QCDを大切に迅速かつ丁寧に対応し顧客満足度向上を図る。

「快適でより豊かな社会づくり」の企業理念のもと、ものづくりに取り組んでまいりました。多様化する顧客ニーズや需要変動に適切に対応するため、製品を提供する全てのプロセスにおいて持続的な品質改善活動を行い、より強固で最適な生産体制の構築を追求しています。今後も顧客に満足いただける高品質な製品を安定供給できるよう、製造資本の高度化・拡充を図っていきます。

知的資本



研究開発費 **1,131**百万円 研究開発要員 **96**人

既存技術の総合力強化と新規技術を習得し、新製品開発のスピードアップ。

スペシャリティ・ファインケミカルメーカーを志向し、電子材料分野、イメージング材料分野、医薬中間体分野および高度技術を必要とするその他化成品分野を中心に、市場ニーズに焦点をあてて新製品の開発から生産技術および新技術の開発に至るまで、積極的な研究開発活動を行っています。

人的資本



従業員数 **243**人 女性雇用比率 **8.2%**

人材採用と育成、健康経営の充実。

企業価値を高めて発展するには人材が最も大切です。安全衛生、品質、環境、健康推進、設備、原料購入、生産管理、営業、人材教育、サービス提供など、全ては人が作りだすものであり、当社社員の総合力が重要です。人間性の尊重を基本とし、社員一人ひとりが最大限に能力を発揮でき、自己実現ができる人材育成・職場環境の維持・拡充を進めてまいります。

ダイトケミックスのコア技術

当社の技術は、創業以来の顔料や経営基盤を確立した染料を合成する技術(有機合成技術)から始まり、それらの機能性を向上させるために様々な素材を安定分散させる技術(分散技術)が発展しました。その後、ジアゾ感光剤の新製品を開発したことから電子材料やイメージング材料分野に進出し、さらに樹脂合成技術(重合技

術)を確立するとともに、高品質化に向けた金属含量低減技術の獲得へと進化してきました。

これらの4つの技術を相互に連携させることにより、顧客ニーズにきめ細かく対応した当社ならではの化学製品を作り出せる総合力が、技術面における当社の強みとなっています。

コア技術	コア技術と事業セグメントの結合	コア技術と主な製品
有機合成技術 合成染料の製造、販売を皮切りに、その技術を活かして感光性材料、印刷材料などの製造を行ってまいりました。その中で磨きをかけてきたのが「ジアゾ化合物」の製造技術。これらに付随して、ニトロ化反応、アミノ化反応、酸化還元反応、ハロゲン化反応などを得意としており数多くの実績があります。染料製造技術を発展させていったのが、写真材料の製造技術です。ジアゾ化合物に加えて、様々な複素環化合物の合成などの実績があります。また、近年では高機能触媒を用いた精密合成にも発展しています。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、写真材料、印刷材料、医薬中間体	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、カラーフィルター用材料、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、永久膜用材料、フィルム用材料、記録材料、インスタントカラー用色材、医薬中間体、ヘルスケア用途品、太陽電池材料
重合技術 当社が対応する重合方法は、溶液重合、乳化重合、懸濁重合などがあります。また、半導体用レジストに対応可能な、分子量や分散度、および不純物をコントロールした高分子化合物の製造にも対応しています。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、印刷材料	先端フォトレジスト材料、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、フィルム用材料、記録材料、印刷材料、太陽電池材料
金属含量低減技術 電子材料などの用途で要求される低金属化にも対応しています。種々の精製技術を保有しており、それらを組み合わせることで製品中の金属含量を極限まで低減します。また、品質を保証するための分析機器も各種取り揃えています。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、その他化成品	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、フィルム用材料、架橋剤
分散技術 有機化合物あるいは無機化合物などの微粒子化、分散技術を有しています。粒子サイズは、数10～100ナノオーダーのレベルまで対応できます。分散機として、高性能槽型湿式分散機、ナノ粒子向け分散機を所有しており、バス方式あるいは循環方式による水系、有機溶剤系の湿式固体分散および粒子化が可能です。フィルム材料、インキ材料、液晶パネル製造材料、太陽電池、二次電池用無機材料などの微粒子化に実績があります。	フィルム材料、写真材料、印刷材料、その他化成品	記録材料、印刷材料、レントゲンフィルム材料、タッチパネル用材料、二次電池用材料

DAITO VISION 2026

社会、顧客が求める一步先の
製品・技術・サービスを提供することで
さらなる信頼を獲得し、安定的・持続的に成長する
スペシャリティ・ファインケミカル企業グループを
目指します。

当社は、製品・技術・サービスの提供を通じて、快適でより豊かな
社会づくりに貢献することを企業理念に掲げ、事業活動に取り組んで
きました。今後も、この取り組みを様々な社会課題の解決につながる
活動であると位置づけ、持続可能な開発目標（SDGs）の達成によ

り、サステナブルな社会の実現に貢献していきたいと考えています。
引き続き、企業理念・行動指針に基づき、持続的成長と中長期的な
企業価値の向上を目指し、2026年度売上高200億円の達成に向
けて取り組んでまいります。

企業理念

わたしたちは、「快適でより豊かな社会づくり」を合言葉に
「一步先をゆく、スペシャリティ・ファインケミカルメーカー」を目指します。
そのために、「グッド マインド」「グッド パートナー」「グッド テクノ」を大切にしています。

行動指針

わたしたちは、人間性の尊重を基本におき、
「すべての人を顧客と考え」「創造と革新に挑戦し」「迅速に対応する」ことを約束します。

中期経営方針

1. コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの充実・強化、製造、製品の環境・安全（レスポンシブル・ケア）を重視したCSRに取り組む。
2. 「ものづくり」メーカーとして、安全第一を基本に置き、QCDを大切に迅速かつ丁寧に対応し顧客満足を上げていく。
3. 既存技術の総合力強化と新規技術を得し、新規受託品、自社製品の開発を進める。
4. 健全な財務体質を向上していくとともに、資源の有効活用を図っていく。
5. 困難な課題にもあきらめずに挑戦し、乗り切っていく。

中期経営課題

1. 売上拡大と新製品開発のスピードアップ
目標: 当社売上高190億円、うち開発品30億円
2. 設備投資の充実: DX推進、AI活用、自動化等による安全、品質の向上と省力化
目標: 3年間で総額約30 億円の設備投資
3. 全体最適化での徹底した生産性向上、コスト削減
目標: 平均労働生産性比率1.2倍（2023年度比）
4. 人材採用と育成、健康経営の充実
目標: 3年間で約30 名の採用、教育費65百万円
5. 2030年までにGHG排出量15%削減（2019年度比）
6. グループ力を強化し、シナジー効果の最大化

経営目標 2026年度連結経営目標

売上高

200 億円

経常利益

13 億円

経常利益率

6%+α

EBITDA

25 億円 (当社単体)



2030年度の ありたい姿

売上高

250 億円

経常利益

25 億円

経常利益率

10%+α

EBITDA

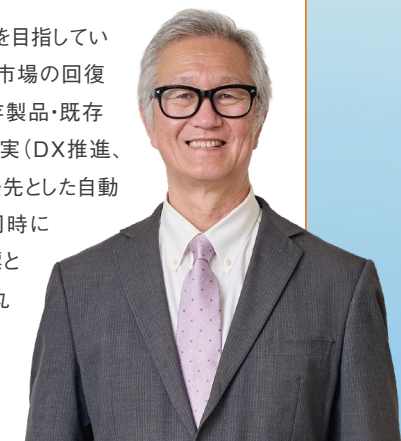
35 億円 (当社単体)

中期経営計画の達成に向けて売上拡大と新製品開発に挑み、
設備投資の継続、人材採用、健康経営の充実で将来を見据えた基盤構築を目指す。

当社は、中期経営計画「DAITO VISION 2026」において、2026年度に売上高200億円の達成を目指しています。中期経営課題である売上拡大と新製品開発のスピードアップに向けた成長戦略として、半導体市場の回復が遅れる中、先端フォトレジスト用材料をはじめとした先端材料の好調を受けて、さらなる受託拡大、既存製品・既存顧客の拡大に取り組んでいます。環境整備として、前中期経営計画に続いて積極的な設備投資の充実（DX推進、AI活用など）を図り、3年間で総額約30億円の設備投資を見込んでいます。生産現場の安全性を最優先とした自動化や省力化を進めるとともに、全体最適化での徹底した生産性向上、コスト削減に取り組めます。同時に人材採用と育成、健康経営の充実にも注力します。3年間で約30名の採用、教育費65百万円を目標としており、基盤構築のさらなる強化を進めています。2026年の中期経営計画の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

取締役 常務執行役員

みなみ しゅういち
南 修一



ダイトケミックスのマテリアリティ

当社は、「快適でより豊かな社会づくり」を企業理念として掲げており、「グッド マインド」「グッド パートナー」「グッド テクノ」という3つのキーワードを全社員が共有しています。また、人間性の尊重を基本に

おき、「すべての人を顧客と考え」「創造と革新に挑戦し」「迅速に対応する」ことを行動指針に掲げ、自らに与えられた使命を誠実に果たし、持続可能な社会の実現に向け、日々の業務を遂行しています。

当社ではこれまでもCSR活動に取り組んでまいりましたが、持続可能な社会の実現の推進をより明確化するために、数ある社会的課題の中から、ステークホルダーにとっての重要性および自社にとっての重

要性の視点に立ち、新たに「マテリアリティ」を特定し、具体的な数値目標を設定しました。新中期経営計画で策定した中期経営課題とともに、中長期的な事業課題として全社をあげて取り組んでまいります。

	重要課題	リスク	機会	取り組み	重要達成指標 (KPI)	2024年度活動実績	評価	
E	環境保護・環境保全・生物多様性	○環境規制強化に対応するコスト増加。 ○化学物質管理規制強化に対応する原料の価格上昇、必要量の調達困難。	○省エネルギー、省資源、環境負荷の低減と省エネタイプへの設備更新。 ○環境負荷の少ない製造プロセスへの改善や製造活動の効率化による競争力強化。	温室効果ガス発生抑制 省エネルギー・省資源 資源の再利用・再使用 化学物質の適切な取り扱い 環境負荷物質の低減	6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と地域革新の 基盤をつくろう 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさ を守ろう <td>○GHG削減率 (2030年までに対2019年度比15%削減 :スコープ1+2) ○原単位削減 (5年間平均原単位を年1%以上削減)</td> <td>GHG排出量:20,979tCO₂(スコープ1+2) (2019年度比:111%) 再生可能エネルギー電力の検討 (2025年度福井工場採用予定) TCFDの枠組みを活用した情報開示の推進 原単位削減率:6.4% (5年間平均原単位削減率) chemSHERPA調査回収率:95% 福井工場LED照明への更新(約100台) 静岡工場ボイラー燃料の燃料転換 (GHG排出量約1/3減) 廃液のリサイクル、燃料化を含むリユースを推進</td> <td>○</td>	○GHG削減率 (2030年までに対2019年度比15%削減 :スコープ1+2) ○原単位削減 (5年間平均原単位を年1%以上削減)	GHG排出量:20,979tCO ₂ (スコープ1+2) (2019年度比:111%) 再生可能エネルギー電力の検討 (2025年度福井工場採用予定) TCFDの枠組みを活用した情報開示の推進 原単位削減率:6.4% (5年間平均原単位削減率) chemSHERPA調査回収率:95% 福井工場LED照明への更新(約100台) 静岡工場ボイラー燃料の燃料転換 (GHG排出量約1/3減) 廃液のリサイクル、燃料化を含むリユースを推進	○
S	社会の一員として: 法遵守	○法令や要求事項等の不遵守による事業活動の低迷、社会的信用の失墜、企業価値の毀損。	○法令や要求事項等を遵守、公正な事業活動の徹底による事業活動の円滑化、顧客からの信頼醸成、企業価値の向上。	法律、規制、要求事項等を遵守 安全保障貿易管理 寄付行為・政治献金規制 反社会的勢力との関係遮断	○重大法令違反件数 (0件/年)	重大法令違反:0件 貿易管理、寄付行為、反社会的勢力等にかかる法令違反なし	○	
	持続可能な製品開発・製品の品質	○顧客ニーズの変化や新たな代替技術の出現などによる自社製品の優位性の低下。 ○品質問題による顧客信頼の喪失。	○多様な顧客ニーズへの対応による技術・製造面での製品開発の実現。 ○安定した品質管理による顧客の信頼の向上。	品質改善活動、要望品質確保	○新製品売上比率 (2026年度:15.8%) ○原材料製品廃棄金額削減 (対売上高0.1%以下)	廃棄金額対売上高:0.15% 新製品売上比率 (2024年度):12.1% プロジェクトチームによる品質改善活動を推進	△	
	人材育成・働きやすい職場環境	○人材の確保・育成不足による事業活動への悪影響。	○人間性の尊重を基本とする事業活動による、有能な人材の確保・育成。 ○成長できる職場環境の整備による安定雇用。	基本的人権・多様性の尊重 人材育成・社員教育 ハラスメントの防止 個人情報の保護 女性活躍の支援	○男性従業員の育児休業取得率の向上 ○年休取得率の向上 ○女性社員割合 (2025年度:8%)	男性社員育児休業取得率:50% (2023年度比:100%) 年次有給休暇取得日数:15.1日 (2023年度比:105%) 女性社員割合:8.2% (2025年度目標8%を前倒しで達成) 各種社内教育、外部セミナーおよび資格取得を推進 女性健康セミナー、女性社員交流会の開催	○	
	CSR調達の推進、原料調達の多様化	○原材料が調達できないことによる製造の停止、顧客への出荷に影響。 ○調達先の違法行為・コンプライアンス違反による事業活動への悪影響。	○調達先の多様化による安定した調達、適正価格での購買。 ○CSR調達による、顧客と社会からの信頼。	製品・サービスの安全性 公正な取引 購入先との適正取引 適正な接待・贈答	○仕入先アンケート回収率の向上	仕入先とのコミュニケーション強化 仕入先アンケート累計回収率:50.7% (2023年度:43.0%)	△	
	職場の安全衛生・保安防災	○教育訓練不足による人災・トラブルの発生。 ○台風、地震などの自然災害や感染症蔓延による製造への影響。 ○事故・不祥事の発生による社会的信用の失墜。	○安全文化の醸成。 ○予防保全のノウハウの蓄積。 ○社員の健康増進。	職場の安全衛生 保安・防災	○休業災害件数 (0件/年)	休業災害:2件 毎月の安全衛生教育、KYT活動の実践 健康経営優良法人2025 ネクストプライト認定 静岡県健康づくり活動に関する知事褒賞受賞 各種健康増進セミナーの開催	×	
G	適正な情報公開・情報管理	○情報の非開示や不十分な開示による企業価値の毀損。 ○災害、不正アクセスによる事業活動への影響。 ○情報漏洩の発生による当社への信頼の喪失。	○意思決定の透明性や変化への適切な対応によるステークホルダーと社会からの信頼の獲得。 ○情報資産の保護と管理、不正アクセスへの対策を徹底した上で、業務の効率化を実現。	利益相反行為の禁止 秘密情報の管理 会社資産等の不正使用の禁止 情報の管理・保護 知的財産権の保護	適正な会計処理 適正な記録と報告 企業の情報開示 インサイダー取引の禁止	コーポレート・ガバナンスに関する報告書の公開 情報公開・情報管理に関する重大懸案事項なし SECURITY ACTION 二つ星を宣言	—	